

# じみんと まがじん

produced by  
自民党青年局  
vol.3 March 2025

政策パンフレット

編集長:天野俊吉 アートディレクター:まちなみわ  
タイトルデザイン:ナイトロ デザイナー:木村ちひろ DTP:榎本美香  
クリエイティブディレクター:三浦崇宏  
ビジネスプロデューサー:大長敬典、半澤大次郎、堀 恭子  
コピーライター:奥山光子  
(The Breakthrough Company GO)

最年少議員

**大空 幸星**

KOKI OZORA

青年局長

**中曽根 康隆**

YASUTAKA NAKASONE



GENERATION TRANSFORMATION

いざ、  
**世代交代。**

GENERATION TRANSFORMATION



## Contents

- 04 いざ、世代交代。  
岸田文雄×大空幸星  
with 中曽根康隆
- 10 選挙をGXせよ
- 14 政治家が学ぶ  
〇〇ってなんすか会議  
「現役世代のための経済政策」って  
なんすか  
てい先生×向山じゅん
- 18 「国防」ってなんすか  
小田原昭×山本大地
- 22 What's in my Bag?  
@自民党青年局

自民党青年局の活動は  
下記からもチェック!



HP



X (旧Twitter)



Facebook

### Cover

Illustration: マツモトカストク  
イラストレーター。フリーマガジン「R25」カットイラス  
トや、「人生ゲーム」シリーズパッケージ、トレーディ  
ングカードゲームのイラストなどを幅広く手掛ける

自民党青年局

だれかの不祥事じゃなくて、  
みんなにとって大事な話をしたい。  
こうなればいいだけじゃなくて、  
こうすればできるも考えたい。  
足を引っ張る大人じゃなくて、  
明日を引っ張る大人にならなくちゃ。

「未来の当事者である若者こそ、  
政治や社会を引っ張っていくべきなのでは？」  
そんな考えをもとに、

「日本のリーダーの若返り  
＝Generation Transformation(GX)＝  
を掲げ、活動しています。」

後ろ向きな政治は、もうお腹いっぱい。  
学びながら、仲間を増やしながらか、みんなを巻き込みながら、  
必要なことを前に進めていく。  
そんな新しいリーダーでいるための、  
じみんとーまがじんVOL.3、始まります。

じみんとー  
まがじん

produced by 自民党青年局  
政策パンフレット

Vol.3 | March 2025





Text by Shunkichi Amano  
Photo by Yuji Ueno



GX=Generation Transformation

前総理大臣 **岸田文雄** × **大空幸星** 最年少議員

# いざ、世代交代。

with  
**中曽根康隆**  
(青年局長)

「自民党、結党以来の危機」——。ショッキングな言葉が飛び交った昨今。「とはいえ結局変わらないんじゃないか?」「現役世代のために動くことができるのか?」。『じみんとーまがじん』では、「Z世代」であり、最年少議員である大空幸星議員と、第100・101代総理大臣の岸田文雄議員の対談を実現。中曽根康隆青年局長のモデレータのもと、「党の変革」「世代交代」について、本気で話してもらいます!



**中曽根** 今回は、**「僭越な企画とは重々承知しながら「世代交代」をテーマに、岸田さんと大空さんに語り合っていたらこうと思っておられます(汗)。** 今回のテーマである「世代交代」について、率直にどう思われますか?

**岸田** 私自身、初当選が平成五年。「第1回の政権交代」の、大変な政局のなかで議員になったんです。だから、先輩たちに言いたいことはたくさんあった。その後、党三役や総理総裁を務めるなかで、若い世代からいい意味での突き上げを受けたこともたくさんあります(笑)。

ただ、そういった「世代交代」的な突き上げや新陳代謝があるからこそ、今日の自民党があると思っています。

**中曽根** 今お話にあった「政権交代」時もそうですし、現在のようにな大変な逆風の厳しいときこそ、若手が原動力にならないといけないと思っています。大空さんに

「若い世代に向けた動きが、自民党として手薄だった」



**Fumio Kishida**

岸田文雄 [きした・ふみお]

1957年生まれ。1993年に衆議院議員に。外務大臣、防衛大臣などを歴任し、2021～2024年には内閣総理大臣(第100代・第101代)を務めた。広島カープファン。カラオケで得意な歌はサザンオールスターズ「涙のキッス」

聞きたいんですが、若手として、今「やりづらい」と思うことなどありますか?  
**大空** 私たちの世代からすると、党に対して大きな提言をしようとしても、「上の方にどういう反応をされるかわからない。だから一歩踏み込めない」ということはあると思います。

現在の「小選挙区比例代表並立制」という選挙システムのなかで、党が公認権を握っている以上、生活やさまざまな不安もあってそうなってしまおうと思うんです。

政治や、自民党を取り巻く空気が変わろうとしている今だからこそ、もつと若い人たちが忌憚なく意見を言える環境をつくっていかなければと感じています。

**中曽根** たしかに、まさに青年局としても「本当に『新陳代謝』が起りやすい制度が運用されているのか、考えていかなければならない」と思っているんですが……岸田さんはどうお考えですか?

**岸田** 今、世界的に分断が問題になってきていると思います。宗教、民族、貧富の格差……。そんななかで日本について考えると、一番身近な分断は「世代間の分断」である。これは政権運営を担ううえで強く感じました。

若い世代向け、高齢者向け、それぞれに向けての政策を考えない

ればならないわけですが、「自民党は国民政党である」と胸を張るなら、世代間融和、お互いの理解を促進させることを考えるべきだと思います。

ただ……、若い世代に向けた動きが、自民党としてちょっと手薄だった、後手にまわった、という状況が、現在だと思います。中曽根 率直なご意見、ありがとうございます。

岸田 もう一つ言うなら「若い世代に向けた政策を考える際に、若い世代のことだけ理解していても広がっていかない」とは思います。私が総理を務めたときに「異次元のこども・子育て政策」を進めましたが、そのことによって、高齢者や独身者がないがしろにされるのでは？という心配も多く寄せられました。

ただ、実際には少子化対策を進めることで社会保障制度も経済もしっかり支えられるわけで、これは高齢者や独身世帯にも恩恵がある

言々と個人主義で、バブルに突入して、経済を重視してきた世代だと思えます。

一方、現在の大空さんたちのような若い世代と話していると、環境、防災といった、社会課題にしっかり取り組んでいこうという世代だと感じる。

つまり、世代間によって本当に感覚が違うと思うんです。何が言いたいかというと、直接このように話してみないと、わからないことがかなりある。もちろん人間だから、直接言われると腹が立つこともありますが(笑)、こうやってお話を聞いてみるべきだなと思いました。

大空 では、ぜひ腹を立てないで聞いていただきたいのですが……。「この30年間、賃金は上がっていない」「負担だけがどんどん重くなっている」。これが若い世代、現役世代の生の声、感覚です。

なぜ、自民党は少子化を止めら

### 「今の自民党は、フラットな状態ではないと思います」



**Koki Ozora**

大空幸星【おおぞら・こうき】  
1998年生まれ。大学在学中に無料・匿名で利用できるチャット相談を運営するNPO法人「あなたのいばしょ」を立ち上げる。2021年「ユークキャン新語・流行語大賞」に「Z世代」が入り、受賞スピーチを行う。2024年10月、衆議院議員に

### GX 対談 岸田文雄×大空幸星 いざ、世代交代。

る。「すべての人に関係する問題なんだ」という全体像、大局観をしっかりと示すことによって、社会全体の理解を得る……こういった姿勢が、自民党としては大事だと考えています。

大空 たしかに、自民党は「老・壮・青」が結集する「国民政党」としてあるべきだと思います。しかし、今の状況は「壮・青」が圧

倒的に少ない。正常な状況にすらないというのが私の考えです。「世代交代」は、全世代がフラットな状況にするために、やはり押し進めていくべきなのではないでしょうか。

岸田 私が20代の若いころ、それより以前の世代は、「学生運動華やかかなりし政治の時代」の人たち。我々はその反動でどちらかと

れなかったのか？ 日本を経済成長させられなかったのか？ 反省……とまではいかずとも、検証が必要だと思います。

これまでの30年間の政策の意思決定者の皆さんが党内にいる。その状態では、検証は難しいのでは

ないか？ もちろんこの国をよくしたいという想いは、皆一緒だと思います。ただ、この状況をどう検証し、どう乗り越えていくのか。この議論が現在の自民党には圧倒的に足りていないと考えています。

岸田 まず……、大空さんのお話はなるほどだと思います。ただ、これまでの経済状況や少子化について、30年間、政治家が問題意識を持っていなかったわけではないんです。

問題意識を持つていたけど、なぜ結果につながらなかったのか？ という検証は必要だと思います。

中曽根 「同じ価値観を共有した、同じメンバー」では、変わるものも変わらないかもしれません。我々のものにも、「もつと青年局や、若い世代が重要なポジションに就けないのか？」という声も多く届いています。民間では、能力主義で、年齢に関係なく適材適所な人材配置をすることが当たり前



**Yasutaka Nakasone**

中曽根康隆【なかそね・やすたか】  
1982年生まれ。祖父は内閣総理大臣(第71~73代)を務めた中曽根康弘。JPモルガン証券勤務を経て、2017年に衆議院議員に。2024年、第56代自民党青年局長に就任。男女の双子の父で、父子でトライアスロン大会にも出場

になっけてきていますが……自民党、政治の世界ではできると思いますか？

岸田 「年齢に関係ない抜擢」、それは私も賛成です。ただ、日本は農耕社会で、立場や年齢を大事にする風土がある。私も若いころは、議論のなかで先輩議員から「長幼の序を知れ」と怒鳴られたこともありました(笑)。

こういった社会風土にも多少は配慮をしながら、政治の世界では能力主義を大事にし、政党としての活力を維持していくべきだと思います。杓子定規に「このポストは何歳以下」とか決めるのも難しい話だし……。

今、話しながら30年ほど前のことを思い出しているんですけど、若手政治家では、役所の人と話すときに、どうしても迫力がなくて重く受け止めてもらえないということがあった。そこで、政策課題をブチ上げるときに、一人ではなく同期の間をできるだけたくさん

ん集めて言う……というふうにしてみたくです。「アクショングループ」という名前をつけてね。大空 そんな工夫をされていたんですか……!

岸田 役所に対峙するときに、一人が意見を言ったら同期が「そうだ、そうだ!」と言って(笑)。安倍元総理も参加してくれてた



「青年局からももっとも、思い切って発言していくべきですね」  
「若手が率直な物言いをして『なんだ』とか文句を言う人は、自民党にはいないですよ?」



**GX** 対談  
岸田文雄×大空幸星  
いざ、  
世代交代。

な。そういう、いろんなノウハウを若い政治家にも引き継いでいく。これも大事なこともかもしれないね。  
中曽根 戦後の政治家は様々な民意を代表して政治の場に立って、「俺はこれを主張するために来たんだ」「それが国のためになるんだ」という、無邪気さや勢いで発言していたとよく聞きます。そういう熱さをもっと必要なんじゃないかと、自己反省も含めて思いますね。大空 地元を回っていて悔しいのは、「自民党に入って、好きなこと言えなくなったね」と言われることなんです。でも、こうして若輩者が岸田さんに好きなことを言

わせてもらっている……。こういう自民党の姿は、やっぱり伝わっていない。だからこそ、青年局からもっとも、好きなことを言うていくべきなんだと改めて思いました。  
中曽根 「自民党は風通しが悪い組織」なんて言われることもあるなか、総理経験者がこうやって受け止めてくださる。なら我々は思い切って発言していくべきですね。若手議員が率直な物言いをして、「なんだ」とか文句を言う人は、自民党にはいないですよ? 岸田 うん、それは……いないと信じてはいる(笑)。

さらに、中曽根青年局長は「小選挙区制では、個人の思い、政策がそこまで重視されていない課題がある」と指摘する。「党の公認をもらうとなると、“党の意見に合わせなくてはいけない”。中選挙区制に移行すれば、同じ自民党から複数候補が出ることもあり、ほかの候補との差別化や、切磋琢磨の必要性が出てくる」



# 02

## 何歳から出られる?

衆 25歳 参 30歳 地方議員 25歳

衆 18歳? 参 ?歳 地方議員 18歳?



「被選挙権年齢の引き下げ」は、今、政治に関心の高い学生たちから要望が多いものの一つなんだとか。「外国では、20歳以下で選挙に出られる国もある。たとえば18歳で出馬できれば、落選しても大学生活に戻れる。部活やサークルの仲間がチャレンジするとすれば、若い世代の間で『応援してみようか』と、政治への関心が高まるはず」

# 選挙をGXせよ

## 中曽根青年局長が主張「新世代の選挙制度」



自民党青年局長が強く提言する「**現役世代のための選挙制度**」。実際、超党派のグループで「旧態依然とした現状をGX(世代交代)するための動き」が生まれてるらしい。多くの人にチャンスが生まれたり、新しい世代でも活躍できたり……そんな**新制度案を、わかりやすく解説してもらった**。

Text by Shunkichi Amano Illustration by Akane Photo by Masaki Fujimura

# 01

## たくさんの人にチャンスを! 中選挙区制への移行



改革案のキモが**小選挙区制から中選挙区制**への移行。「1つの小さな選挙区から1人が当選する」→「大きな選挙区から、複数人が当選する」仕組みになるってことだ。「今は、党の公認を持った1人だけが出馬。「**現職優先**」ルールもあり、すでに候補がいたら公認を得るのは難しい。中選挙区制なら、複数人が党公認で出られる。**新陳代謝につながるんです**」(中曽根康隆 自民党青年局長・コメントは以下同)



中曽根局長に  
もうちょっと  
聞いてみた。

### 「中選挙区制」のメリット、ほかにもある？



私の地元・群馬県では祖父の中曽根康弘、そして福田赳夫氏と小淵恵三氏が切磋琢磨してきた経緯があります。私が小さいころは「福中戦争」なんて言われてた。「経済の福田」「外交の中曽根」などと、「政党名」ではなく、「己の名前で戦う」人が増えれば、有権者の皆さんにとってもいい選択肢が増えるはず。

### 「中選挙区制」、デメリットもあるんじゃないですか？



複数候補が出馬することで、過剰なサービス合戦になる。「金権政治の温床に」という指摘があります。ただ、時代は変わり政治資金規正法の改正や、派閥の解消があった。以前と同じようにはならないはずですが……中選挙区制に進むのであれば、厳格なルール作りはセットで進めるべきだと考えます。

### 若者、現役世代へのメッセージをお願いします！



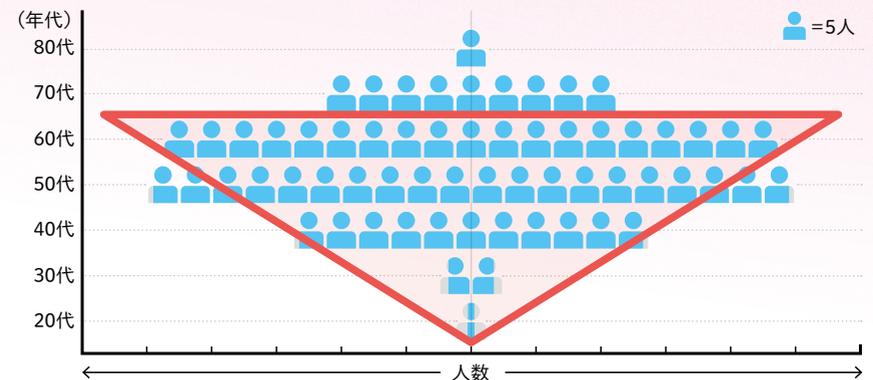
政治への無関心が蔓延している現状……。「政治は上の世代のもの」と思っている人が増えていくと、投票率はどんどん下がってしまいます。投票率が3割、2割を切るなんてことになると、もはや「日本の民主主義の危機」だと思う。そうならないために、青年局はこれからも皆さんに学び、行動を続けていきます。

# 03

## 世代交代、すすめよう。

政治の世代交代を進めるために、上の世代のボリュームが多い「逆ピラミッド」状態をどうにかすることも必要だ。自民党には「衆議院比例代表73歳定年制」というルールがあるが……。制度が守られていないことも。

### 自民党議員の年齢分布は「逆ピラミッド」



### 世界では、若い世代も立候補可能!

#### 世界の被選挙権年齢(下院)

18歳以上



イギリス



フランス



ドイツ



韓国

※韓国は一院制

21歳以上



ポーランド

25歳以上



アメリカ



日本



給料低いなんてわかって保育士になってる。そこじゃないんです。

月々2歳の未就園児を預けることが可能。1カ月あたり10時間程度の上限もスタートしますが……。てい先生 制度自体は大賛成です。ただ「**月10時間はないよな**」と思います。1回2時間だとして5日間。あまりにも少ないです。親御さんたちの不安を煽るわけじゃないですが、**たぶん子供は「ママとバイバイしたくない」**って泣いて終わりですよ。

向山 難しいですね。今日は「保育の現場のリアル」がテーマですが、保育士さんの配置基準が見直されている（2024年度から4、5歳児の配置基準が子ども30人につき保育士1人↓25人につき1人に改正）という状況もあり、少しずつ改善されてきているんでしょうか？

てい先生 改善……**されてないです（笑）**。1人で見える子供が「30人」だったのが「25人」になっただけですよ！ そんなに変わらないですよ。なんの実感もない。

# 〇〇ってなんすか 政治家が学ぶ会議

Seijika ga Manabu MaruMaru te Nansuka Kaigi

議員が上からモノ申すんじゃない。議員こそ現場の専門家に学びに行くべき！ そんな想いで#1からスタートした「〇〇ってなんすか会議」。今回は「パパ、ママ世代や保育現場のリアル」と「戦争のリアル」がテーマです。かなりハードな話も出ましたが、有権者の本音を、聞いてください！



話す人  
てい先生  
てい・せんせい



学ぶ人  
向山じゅん  
むこうやま・じゅん

保育士。園児たちの日常の言動や、パパママ世代に向けた発信を行い、YouTube登録者数は80万人を超えるなど大人気。書籍『ほお……、ここちきゆうのほいくえんか。』の上梓や、テレビ番組への出演など各方面で活躍中

不妊に悩んだ経験をきっかけに政治家を目指す。政策を学ぶためハーバード大学へ留学。その後、自民党の公募に応募し、2023年に党北海道第8選挙区支部長に就任。2024年、第50回衆議院議員総選挙にて、初当選

「現役世代のための経済政策」ってなんすか

# 「『給料上げれば保育士は辞めない』？ズレてますよ！」

Text by Shunkichi Amano Photo by Masaki Fujimura

向山 まだまだですかね……。  
てい先生 昔は「一斉保育」といって、すべての子供に同じことをさせるという保育の仕方でした。今は、厚生労働省やこども家庭庁が「個別の対応を尊重していきましよう」と言い始めて、それ自体はすばらしいこと。ただ、**国が求める保育の質と実際にそれが遂行できるかという部分で、かなり乖離がある**と思います。

向山 保育士の賃上げの動きもあります（2024年度の保育士等の人件費を前年度から10・7%引き上げる）など発表された好影響はないですか？

てい先生 もちろん、月に1万円給料が上がったらうれしいとは思いますが、でも、**人が辞める辞めないはそこじゃない。保育士になる人って、「給料が低い」なんてわかって保育士になってるんです。じゃあなんで辞めてしまうのか？ 僕は「業務負担」だと思っ**それを、政府の方は誰も理解され

は見た目の話だけじゃない。精神的にもです。

上の方々が行かないなら、若手の議員の方に行ってほしいです。

向山 私も、自分の子供の保育園を見学に行ったとき、先生たちがすごい疲れてる……って驚いたことがありました。

てい先生 “お客様”である親御さんの前で疲れ果ててる……なんて普通じゃないですよ。でもそれが実情。

とにかく、**こっちはパフォーマンスなんていら**

んスなんていら

ないんですよ。毎年イライラしちゃうんですけど……イライラってすみません（笑）。偉い議員の方が「妊婦体験だ」って、重みみたいなの付けて「こりゃ〜妊婦さんは大変だねえ」とか言ってますよね。**「いや、5分や10分じゃん」**って思います。

実際の妊婦さんは十月十日だし、寝返り一つ打つのだって不安になってる。

**理解しようとしてます、**っていい



### 妊婦体験？ パフォーマンスなんていません。

てい先生 「お給料上げればいいんでしょ」はズレてますよ。

向山 なるほど。どうやってその膨大な業務量を改善していけますかね？

てい先生 たとえば「指導計画案」という書類を年間案や個別指導案など、4つ提出しなきゃいけないんです。でも先日、ある報道番組に出たら、こども家庭庁の方が「我々はそれは求めてない」って言うんです。でも実際には指摘されているし……**上の方に、「現場で何が起きているのか」をちゃんと知ってもらいたい**ですよ。向山 もっと具体的に知っていく必要がありますね。

てい先生 政府の方々がたまに保育園に視察に行かれてますけど、都合のいい園に行ってるんじゃないかと思うんです。きれいな保育園ばかり行ってるじゃないですか！ もっと、「汚いところ」に行ってください。**現実、もっとボロボロですよ。ボロボロ**っていうの

う浅いパフォーマンスじゃなくて、「ちゃんとわかってほしい」。たぶん、みんな思ってるんじゃないかな。

向山 そうですね……我々若い世代の議員が、もつと行動して、現役世代の皆さんに発信もしていかなければと思います。

最後に、現役世代の方にメッセージがあればお願いします！

向山 私はやはり、投票に行ってくださいと思います。仕事も子育てもあって、現役世代って一番忙しい。それが投票率が低い理由だと思ってるんですが、有権者として投票していただくことが、社会を変えることにつながります。

てい先生 僕は逆に若い方々に何を言いたかって、「**自分を幸せにしてほしい**」ってことです。政治に対して声を上げてって言われても、そんな余裕ない人が多いですよ。子供が」という気持ちはもちろん大事だけど、「**親自身**」とか、「**保育士の先生自身**」が、**まずどうやってたら幸せになるの**

### What is "economic policy for the working-age population"?

か？を考

えてほしいなと思います。

向山 たしかに。投票が難しかったら、**つらいことを「発信」**してくるだけでもいい。そういった声が届いて、大きく社会を動かすこともありますし。

てい先生 発信するのはよいと思いますけど、Xで「議論」するのは反対です（笑）。ちゃんと議論できてるポスト、あんまり見たことないですよ。

向山 それは間違いないかも（笑）。



政治家が学ぶ  
会議  
0000 Seiika ga Manabu MaruMaru to Naranaka Kagai

「国防」ってなんすか

# 「ウクライナの映像を見て、ようやく話す決心ができた」

Text by Shunkichi Amano Photo by Masaki Fujimura



話す人  
小田原昭



学ぶ人  
山本大地

おだわら・あきら  
小田原潔前衆議院議員の父。元陸上自衛隊自衛官で、東部方面総監（陸将）を勤めた。少年時代を満州（当時）で過ごし、現在はその引き揚げ体験を語るセミナーなどを行っている。

やまもと・だいち  
1991年生まれ。和歌山県出身。紀陽銀行勤務、議員秘書を経て、2022年の和歌山市議会補欠選挙に自民党公認で立候補し当選。2024年の第50回衆議院議員総選挙で初当選。小中高と野球に打ち込む



——小田原さんは、さまざまなか所でご自身の「満州からの引き揚げ経験」をお話しになりはじめていることですが、そのきっかけを教えてください。  
小田原 ソ連兵の暴行、虐殺、略奪のなかで暮らした悲惨な体験でしたので、「みんなにわかってもらえないかな」と思って話してこなかったんです。ただ、ニュースでロシアによるウクライナ侵攻の

母の口ぐせは「負けたらダメだ」。80年間の信条になった。



映像を見て、今話したら理解してもらえないんじゃないかと思っただけですね。「日本人も過去、こんな目に遭ったんだ」と。ようやく話す決心ができたというのが実情です。  
山本 自分自身、平成3年生まれで、戦争は祖父に聞いた話のなかでしか知りません。ウクライナの映像を見て「この時代にこんなことが」と驚きました。  
小田原 大戦期にはドイツもソ連の蛮行を経験をしますし、ヨーロッパは多くの国が悲惨な戦場になっていくんですね。  
私は、終戦のとき10歳。1年間を占領下の満州で過ごしたんです。……その1年後に日本本土に帰ってきたときはびっくりしました。街中にジャズが流れてるんです。子供たちは米兵に群れてる。奪もない、学校も銀行も郵便局もやっつる。日常生活があっただすよね。

もちろん本土もたくさん被害を受けたわけですが、10歳の私にとっては、「満州で逃げ回った経験とのギャップ」は非常に驚きでした。  
山本 小田原さんが満州で体験したことを、少し教えていただいてもよいでしょうか？  
小田原 1945年の8月20日ごろ、奉天にソ連兵が侵略してきました。暴虐な略奪、強姦が続くなか、ある日、ソ連兵が住宅地域を包囲し、全員が広場に集められました。そのうち、「男は立て」「前に出ろ」と言って、多くの男性たちを車でどこかに連れ去ってしまった。戦争は終わっているのに……拉致ですね。私の親父もシベリアへ連れていかれ、帰ったのは3年後でした。親父が帰ってこられたのは幸いでしたけど……。  
残された私たち家族、女性や子供は地下の暗い配管溝の中で半年ほど暮らしました。たまたま地下壕を出て、恐る恐る2階の家に戻



「愛国心」なんて嫌いだと思いつつ、みんなの心の底にあるものかも。

つと国民にリスクとされる環境を作らなければ」と思いました。環境的に大変なことも多かったですし、自衛官の方たちがふだんから訓練をしていておかげで国が守られていると知れた。戦争はもちろん誰もしたくないものではない。あらゆる意味でも損失が大きい。ただ、自分たちの国を守ることを一人ひとりが考えなければいけないと感じました。小田原 その通りですね。戦争は避けなければなりません。しかし、負けると私が体験したように国がなくなり、人権も奪われます。国家国民のために負けない体制を作っていたらいい、と念願しております。

今、竹島とか北方四島とか主権や人権をめぐるいろいろな問題があるけど、国民は直接この状況を変えられないんです。議員しかできない。あなた（山本議員）しかできないんですよ。悲劇を被るのは弱者ですから。頼みます。

り、料理を始めた。それを見ているかのように、ソ連兵が突然入ってきました。銃を突き付けられた母は隙を見て逃げました。私も走りまわります。日本人のお宅を叩きまわりますが、住んでいるのか、いないのかわかりません。なかなかドアを開けてくれません。……日本人は、「恐怖と絶望と無力感」、くわえて飢餓、伝染病、そういうなかで希望のない生活を余儀なくされていきました。

母は「負けたらダメだ」「負けたら人間ではなくなる」と繰り返し言っていました。これは、今に至るまで私の80年間の信条です。

山本 そんな生活だったんですね……。わずかな希望や心の支えはあったんでしょうか？

小田原 今思えば、親たちは「子供を守る」ということでしょうね。親の笑顔なんか、あんまり見たこととはなかった。みんな生きるのに必死でしたから。

私の妹も生まれたばかりで、ろ



### What is "national defense"?

くに栄養も与えられず、泣く力もなくなりつつありました。

だから、ウクライナでの戦争の映像を見たとき「また同じだ」と感じました。ああ、かわいそうだなあという「虚しさ」です。

——若い世代や、現役世代にとっては「国防」は少し距離を感じる話題なのかとも思います。それに対して、どう思われますか？

山本 自分のまわりを見ると、二極化していると思います。好戦的な過激な意見と、無関心と。ただ、30代の同世代のなかでは、昨今のウクライナ情勢や「台湾有事」に関する話題に際しては「自分の国は自分で守らな」といけない」というニュアンスで話す人が、何のデータもない肌感ですが増えているように思います。

表現は正しくないかもしれないんですが……僕は、先の大戦のような「扇動された愛国心」ではなく、自分の国を自分で守るんだという気持ちを醸成していくのが重

要なんじゃないかと思っっていました。小田原さんは、どうお考えでしょうか？

小田原 愛国心……。それがあると、私は「モノの見方が広がってくる」と思うんです。一般の企業でも、たとえば「これ買っていいの、これ売っていいの、あるいは「こんなことで儲けていいの」が問われることがあると思う。単に自分のため、自分の会社のためだけじゃない、いろんなものの方がいい。そんな発想が広がってくる感覚のような気がしますね。

まあでも、日本人はみんな（愛国心という感覚が）嫌いかもしれない（笑）。嫌いだと思いつつ、みんなの「心の底にある」ようなものなのかもしれないね。

山本 そうですね。じつは、3年ほど前に少しか陸上自衛隊の予備自衛官を経験したんです。

小田原 それは尊敬に値します。

山本 行ってみて、「自衛官がも

